

実りの秋がやってきました！

かわらばん

令和3年度農山漁村集落体制づくり支援事業



県では、平成28年度から、農山漁村地域の魅力や課題の掘り起こしや、地域の将来像実現に向けた活動を企画する話し合いを行うとともに、企画した活動を円滑に行えるようサポートをすることで、地域の体制づくりを支援しています。

今年度は、6つの地区で当事業を活用しています。

今回は、10月10日に行われた栗原市蓬田(よもぎだ)地区の農作業体験と、栗原市有壁地区の「ねじりほんによコンテスト」の様子を紹介します。

大学生と一緒に

栗原市蓬田地区では、今年度から尚綱学院大学との連携を進めています。今回は、2人の学生と一緒にサツマイモとエダマメの収穫を行いました。今年は大豊作で、スーパーで見るとは比べものにならないほど立派なサツマイモを、汗をかきながらみんなで一所懸命収穫しました。また、さやにぶつくり実の詰まったエダマメを、ひとつひとつ丁寧に収穫していききました。参加した学生は、慣れない作業に苦戦しながらも楽しんでいるようでした。

今回収穫したサツマイモとエダマメは、11月に行う収穫祭で参加者に振る舞う予定です。

栗原の風物詩と言えば・・・

栗原市有壁地区では、「ねじりほんによコンテスト」が行われました。これは地区で初めての試みです。

ほんによとは、刈り取った稲を稲杭(いなぐい)にかけたものです。稲がなかなか乾かない地区では、風通しを良くして早く乾くように稲をずらして干すのでねじれており、これを「ねじりほんによ」と言います。

今回のコンテストでは、2人一組になり、「ねじりほんによ」をつくってその美しさを競いました。22名が参加し、30本の「ねじりほんによ」が田んぼに並びました。どれも甲乙付けがたい出来映えに審査は難航。最終的に最もバランスのとれた「ねじりほんによ」を作った1組が最優秀賞となり、大盛り上がりイベントとなりました。



近くで見ていると、バランスをとるのはなかなか難しい！きれいなねじりほんによをつくるにはコツがあるようです。

前日の雨で重くなった土を掘るのは重労働でした。しかし、苦労した分だけ収穫した喜びも大きいです！